

重点プロジェクト＝総合戦略事業

第2期地方版総合戦略の位置づけ

国の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」における「人口減少の緩和」「地域内経済循環の実現」「人口減少に適応した地域づくり」という地方創生の視点は、大磯町第五次総合計画前期基本計画でめざす方向性と合致することから、前期基本計画は「第2期地方版総合戦略」を兼ねるものとし、課題解決に向けて重点的に推進する取組みを示す**重点プロジェクトを「総合戦略事業」として位置づけ**ます。

〈重点プロジェクト1:働く人を応援するプロジェクト〉

○課題

自然や歴史・文化的な魅力を有する良好な住宅地として発展してきた大磯町であるが、近年は人口減少・少子・超高齢社会の到来により、地域産業の担い手不足、生産性の向上といった課題に直面している。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、働き方や生活様式の変化により、従来の住宅地としてだけでなく、良好な環境の中で、住みながら働くことができる町としての魅力が着目されつつある。

○基本的な考え方～官民が連携して、働く世代を町に呼び込み、地域経済の活性化を推進する～

町の魅力を高め、開かれたまちとして持続していくために、働く人が元気になるまちをめざします。町内外での交流による地域産業の担い手づくりや魅力的な拠点の形成・活用などを通じて、経営基盤の安定化を図るとともに地域経済の循環を育んでいきます。こうした取組みを町民・事業者と連携・協働しながら進めることで、町民の誇り・憧れ・活気を育み、大磯らしい多様なライフスタイルを創出します。

○期待される効果

■ 多様な産業・働き方の提案
⇒ 多様なライフスタイルの実現

■ 地域経済の循環促進
⇒ 地産地消の促進・交流機会の創出

■ 大磯町の魅力向上
⇒ 移住促進・関係人口の増加

補足）現状…原則令和元年度末数値、補助的評価指標…第五次総合計画前期基本計画部門別計画（P28～P89）の施策指標から引用

P(PLAN)		D(DO)										C(CHECK)												
重点事業	実施項目	主な取組み	評価指標	単位	現状	指標の推移						町評価												
						R3	R4	R5	R6	R7	目標	評価	評価理由	今後の方針										
① 地域産業基盤支援事業 ・地域産業の担い手を関係者と連携しながら多角的に支援します。	◆多様な担い手の確保や育成への支援	森林所有者と利用希望者のマッチングに向けた意向調査	K P I	町内事業者数	件	1,259	1,249	1,351	1,349			1,259	A	KPIの推移は横ばいであるが、数値目標は達成しており、地域産業の担い手の支援など、当該事業は順調に進められている。	引き続き、生産力の維持・向上のため、地域産業の担い手の確保や育成に対する支援を行う。									
	◆生産力の維持・向上への支援	川場村との協定、めいどいんおおいそ、ふるさと納税返礼品の新規登録														《上記のKPIの補助的な指標として参考としてください。》								
	◆経営環境の改善や経営基盤強化への支援	中小企業金融対策融資・資金利子補給、勤労者住宅資金利子補給、勤労者生活資金利子補給														金融対策支援融資利用件数	件	13	5	7	8			18
																勤労者金融対策支援件数	件	30	34	38	27			36
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—												
② 地域経済循環形成事業 ・町内の観光施設等を活用することにより地域経済の流れ・循環を形成します。	◆みなとオアシスエリアの充実	打上げ花火、水合戦、映画上映、フィッシングフェアなどのみなとオアシスエリアを活用した事業の実施	K P I	繁閑差率(※3)	%	36	53	57	54			50以上	A	KPIの推移は横ばいであるが、数値目標は達成しており、新規イベント等を開催するなど、当該事業は順調に進められている。	新規イベントを継続していきながら、通年での地域経済循環の形成をめざす。									
	◆大磯らしい潤いづくり(※1)の促進	大磯まつりの実施、大磯らしい潤いづくり協議会事業等への支援														《上記のKPIの補助的な指標として参考としてください。》								
	◆スマート産業(※2)への転換の促進															入込観光客数	万人	97.9	64.9	105.6	119.8			100以上
																旧吉田邸年間観覧者数	人	38,755	16,175	23,481	22,051			49,000
			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—												
③ 働く世代の移住促進事業 ・住みながら働きたいと思う人々を大磯に惹きつけ、移住者の増加をめざします。	◆移住支援総合窓口の開設	移住支援総合窓口による移住相談	K P I	移住支援総合窓口の相談件数	件	0	9	29	20			10以上	A	KPIの推移は減少傾向であるが、数値目標は達成しており、移住支援総合窓口だけでなく、町主催移住セミナーなど新たな取組みを進めていることから、当該事業は順調に進められている。	引き続き、移住定住の促進に向けた取組みを進めるとともに、大磯の魅力を発信する新たなツールの検討を行う。									
	◆お試し居住の実施	町内移住支援団体との連携														《上記のKPIの補助的な指標として参考としてください。》								
	◆多様な働き方の支援	空き家バンク登録、町主催移住セミナーの開催、県主催セミナー・移住イベント(ふるさと帰郷フェア)への参加、移住パンフレットのリニューアルに向けた検討														空き家バンクの登録・活用件数	件	5	10	30	13			10以上
																多様な働き方への取組み件数	件	0	0	0	0			5
			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—												
C(CHECK)					A(ACTION)																			
総合計画審議会評価					町評価																			
評価	意見等				今後の方向性																			
I II III IV V	②地域経済循環形成事業に関して、実施項目「スマート産業への転換の促進」の「主な取組み」に記載がなく、何も実施できていないのは良くない。また、目標値を達成していない補助的評価指標(旧吉田茂邸年間観覧者数)についても「なぜ増えていないのか。」を考える必要がある。 ③働く世代の移住促進事業に関して、実施項目「多様な働き方の支援」の「主な取組み」の記載では、実施項目の本質からずれているように感じる。また、補助的評価指標(多様な働き方への取組み件数)の件数0についても「なぜ増えていないのか。」を考える必要がある。				◆重点事業①について、森林所有者と利用希望者のマッチングに向けた意向調査の結果を元に、林業の担い手の確保に努める。また、県立高校や大学と連携しながら、鳥獣被害対策や加工品の開発などを行い、人と動物の環境の共生や、産業振興に取り組む。 ◆重点事業②について、引き続き、「ウィークリー打上げ花火」等の大磯港のイベントを進めていきながら、新たな取組み(大磯海水浴場140周年記念事業)の実施や、既存施設の来訪者数(観覧者数)が増えるような取組みを検討し、さらなる充実を図る。また、ふるさと納税返礼品に新たな産品・製品の登録を進め、財源確保に取り組む。 ◆重点事業③について、引き続き、移住支援総合窓口による移住相談、全国的な移住イベント等へ参加していきながら、本町の魅力発信に努める。また、移住プロモーション動画の制作を行い、大磯を“知らない人”や“少し関心がある人”をターゲットとして、移住相談や本町への来訪といった関係人口の増加につなげる。																			

(※1)大磯らしい潤いづくり…観光及び産業を通じた情報発信、通年での誘客や町内事業者への多角的な支援などを促進し、効果的かつ総合的に来訪地としての魅力を高めていくとともに、地域に賑わいを生み出すことを目的とする取組み。

(※2)スマート産業…人手不足や生産力向上等の課題解決を実現するため、ロボット技術やICTを活用する取組み。

(※3)繁閑差率…観光客数の繁忙期(5月～10月)と閑散期(11月～4月)の差を率で示したもの。

〈重点プロジェクト2:妊娠・出産・子育て・教育の希望をかなえるプロジェクト〉

○課題	○基本的な考え方～地域が一体となり子どもや子育て世代を支え、次世代へとつないでいく～	○期待される効果
少子・超高齢社会が到来する中、次世代へ引き継いでいく社会を形成するためにも子育ての環境を充実させることが求められている。行政サービスの充実、地域ぐるみでの子育て支援の拡充、大磯町の自然や歴史・文化を生かした魅力的な教育の推進し、次世代へと継承していくことが重要である。	少子・超高齢社会が到来する中、次世代へ引き継いでいく社会を形成するためにも子育て・子育ての環境を充実させることが求められています。 行政サービスの充実とともに、地域ぐるみでの子育て・子育て支援の拡充を図ることで、子育てしやすいまちとして大磯町の存在感を高めていきます。 また、大磯町が有する自然や歴史・文化を生かした魅力的な教育を推進し、次世代へと継承していきます。	■ 子育て支援の充実による仕事と子育ての両立 ⇒ 子育て世代の社会参加の促進 ■ 子育て環境の向上による定住促進・移住希望者の増加 ⇒ 定住人口の安定化 ■ 教育の質の向上と地域学習の推進 ⇒ 地域人材の育成・発掘



補足) 現状…原則令和元年度末数値、補助的評価指標…第五次総合計画前期基本計画部門別計画(P28～P89)の施策指標から引用

P(PLAN)		D(DO)										C(CHECK)			
重点事業	実施項目	主な取組み	評価指標	単位	現状	指標の推移						町評価			
						R3	R4	R5	R6	R7	目標	評価	評価理由	今後の方針	
① 子育て総合支援事業 ・妊娠・出産・子育ての各ステージの応じた支援を行います。	◆待機児童対策の推進	大磯幼稚園の認定こども園化	KPI 補助的評価指標	待機児童数	人	15	8	9	18			0	C	KPIの推移が大きく増加していることから、幼児教育・保育ニーズに対するサービスが不足している。	認定こども園の早期開園に向け取組みを進めるとともに、待機児童の解消及び幼児教育・保育ニーズに対するサービスの拡充を検討する。
	◆切れ目ない支援体制の構築	《上記のKPIの補助的な指標として参考としてください。》													
		保育の資質向上支援研修実施回数		回	3	3	3	4			3以上				
		放課後子ども教室の参加者数		人	5,746	1,196	2,516	2,697			6,000以上				
② 地域とともに見守り育む子育て事業 ・地域全体で子育てを支える環境を構築します。	◆子育て支援センター機能の充実	つどいの広場、子ども発達相談員	KPI 補助的評価指標	「つどいの広場(※4)」利用者数	人	13,807	7,610	10,608	12,001			15,000以上	B	KPIの数値目標は達成していないが、増加傾向にあることから、当該事業の一定の成果が見られる。	引き続き、子育て家庭への包括的な支援を進めていきながら、地域で子育てを支える環境の構築に向けて検討する。
	◆子育て世代と支援者のマッチングの促進	《上記のKPIの補助的な指標として参考としてください。》													
		子ども発達相談員による相談数		人	321	544	539	563			370以上				
		青少年関連行事開催数		回	5	3	6	7			8				
③ 次代を育む「大磯教育」事業 ・幼保小中連携、地域連携など大磯町の特性を生かした教育を推進します。	◆学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の設置	学校運営協議会の開催及び運営についての調整等	KPI 補助的評価指標	学校運営協議会における実施事業数	事業	0 (未設置)	0 (未設置)	6	6			10以上	B	KPIの推移は横ばいであるが、教育ICT環境の充実など、当該事業に一定の成果が見られる。	引き続き、教育ICT環境の充実を図りながら、幼保小中が連携した教育をめざす。
	◆教育ICT環境の充実	《上記のKPIの補助的な指標として参考としてください。》													
		青少年指導者研修参加延べ人数		人	6	10	6	10			12				
		「授業が分かる」と回答した生徒の割合		%	60.3 82.4	79.9 72.8	81.9 82.3	83.9 80.7			80以上 85以上				
C(CHECK)						A(ACTION)									
総合計画審議会評価						町評価									
評価	意見等					今後の方向性									
I II III IV V	①子育て総合支援事業及び②地域とともに見守り育む子育て事業に関して、移住の相談を受ける際に、子育てに関連する事業を良く聞かれることから、上手く表現(PR)した方が良い。 ③次代を育む「大磯教育」事業に関して、実施項目「学校運営協議会の設置」の「主な取組み」では、学校運営協議会でどのような議論がされているのか分からないため、形式的な取組みに見えてしまう。また、多様化することもたちの能力を良く分析しながら、どのような取組みが必要であるのかを考え、重点事業に位置付ける必要がある。					◆重点事業①について、令和9年度の認定こども園の開園に向けて設置運営事業者による整備を進める。また、引き続き、早朝の預かり保育や預かり時間の延長、大磯幼稚園の早期保育を実施することで、認定こども園開園までの待機児童対策を行う。 ◆重点事業②について、引き続き、子育て家庭への一体的かつ包括的な支援を行う「こども家庭センター」による相談体制の充実を図る。また、民間事業者と連携をしながら、地域資源を活用したこどもや子育て世代の居場所づくりを地域とともに取り組む。 ◆重点事業③について、1人1台タブレット端末を活用した「心の健康観察アプリ」や、地域から指導者を派遣する「大磯式部活動」を継続的に進めながら、町立小中学校の特別教室への空調整備や、町立大磯小学校のトイレ改修の施設整備を進める。また、学校運営協議会の運営に加えて、地域学校協働本部の立上げを進め、地域とともに課題に対して連携・協働する体制を整える。									

(※4)つどいの広場…乳幼児とその保護者が安心して自由に遊ぶことができる場所であり、子育てコンシェルジュ・子育てアドバイザーによる、子育ての不安や悩みに対する相談を行っている。

(※5)グローバルな大磯カリキュラム…グローバルとは地球規模を意味するグローバル(global)と地域を意味するローカル(local)を組み合わせた造語で、国際社会で求められる能力等を育む外国語教室、歴史資源を生かした郷土学習、恵まれた自然環境を生かした環境学習など、本町の特色や地域資源を生かした学習をめざす取組み。

＜重点プロジェクト3:住む人の安心な暮らしを守るプロジェクト＞

○課題

住み慣れた地域での自立した暮らしを継続していくためには誰もが安心して暮らし続けられる地域を築くことが求められている。災害などの非常時にも柔軟に対応できるように地域防災力を高め、安全で安心して過ごすことができる地域づくりが必要である。

○基本的な考え方～あらゆる生活の基盤を支え、安全で安心を実感できる暮らしを実現する～

自然に囲まれた環境の中で、安心を実感できる暮らしを実現することが、大磯町の豊かさの原点です。平時においては、暮らしを支える健康づくりを推進し、安心や交流の基礎となる移動環境の改善により、仕事や余暇などそれぞれの暮らしの場面を支えます。災害などの非常時にも柔軟に対応できるよう地域防災力を高め、平時から非常時まで安全で安心して過ごすことのできる地域づくりを進めます。

○期待される効果

- 災害に強い地域の形成
⇒ 回復力の強いまちづくり
- 健康寿命の延伸
⇒ 高齢者の社会参加の促進
- 地域での出会い・つながりの形成
⇒ 地域での支え合いの強化

補足）現状…原則令和元年度末数値、補助的評価指標…第五次総合計画前期基本計画部門別計画（P28～P89）の施策指標から引用

P(PLAN)			D(DO)									C(CHECK)				
重点事業	実施項目	主な取組み	評価指標	単位	現状	指標の推移						町評価				
						R3	R4	R5	R6	R7	目標	評価	評価理由	今後の方針		
① 地域防災力向上事業 ・あらゆる災害に対し、自助、共助、公助により的確に対応できる体制づくりを進めます。	◆防災・行政ナビ(※6)の普及・機能拡充	備蓄品・資機材等の購入、防災・行政ナビの機能(写真投稿機能)の活用促進	KPI	防災・行政ナビ登録者数	件	0 (導入前)	4,953	6,176	7,247			5,000以上	A	KPIの数値目標は達成しており、増加傾向にある。また、備蓄食糧品の整理を行うなど、当該事業は順調に進められている。	地域と連携しながら、あらゆる災害に対応できる体制づくりを進めるとともに、幅広い対象者に防災に対する意識の向上に向けた取組みを進める。	
	◆総合防災訓練等の継続実施	安否確認訓練、参加型訓練、津波土砂避難訓練の実施	補助的評価指標	《上記のKPIの補助的な指標として参考としてください。》												
	◆業務継続性の強化	本庁舎使用不能時における代替庁舎使用に係る協定の締結		災害協定数	件	51	72	79	82			60以上				
	◆感染症対策の充実	感染症対策マニュアルによる運用		防災リーダー資格者数	人	30	33	36	39			48以上				
				防災訓練(安否確認訓練)参加率	%	80.2	79.1	83.1	65.6			90以上				
		備蓄食糧品の計画数に対する確保率	%	108	43	47	100									
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
② 健康長寿推進事業 ・未病対策なども含めて健康寿命の延伸を促進します。	◆地域での健康づくりの促進	次期けんこうプラン大磯の策定、ますます元気いっぱい教室、ボール・ウォーキング教室、介護予防講師派遣	KPI	平均自立期間(※9)	歳	男性 81.51 女性 84.73	男性 81.51 女性 84.73	男性 81.0 女性 84.5	男性 81.1 女性 84.8			延伸	B	KPIは目標(延伸)を達成しており、一定の成果が見られているが、一部事業の見直しが必要である。	引き続き、健康長寿推進に向けた取組みを進めるとともに、各指標の向上につながる取組みについても検討する。	
	◆地域とのつながりの構築	つながり事業	補助的評価指標	《上記のKPIの補助的な指標として参考としてください。》												
				おあしす24から地域主体の通いの場へ転換数	件	0	0	0	0			3				
				スポーツ施設利用件数	件	3,191	2,587	3,094	3,046			3,300				
				—	—	—	—	—	—	—	—	—				
③ 地域モビリティ(※7)推進事業 ・誰もが安心して行き交うことができる環境を整えます。	◆公共交通の維持、新たな公共交通の導入	補助路線バスの継続、大磯町地域公共交通計画の策定	KPI	新たな公共交通サービスの導入数	件	1	1	1	1			2	B	KPIの推移は横ばいであるが、地域公共交通計画を策定し、具体的なサービスの検討が進められている。	令和5年度に策定した「地域公共交通計画」に基づき、新たな公共交通の導入に向けた取組みを進める。	
	◆移動困難者、移動制約者への支援	予約型乗合タクシーの運行、大磯町地域公共交通計画の策定	補助的評価指標	《上記のKPIの補助的な指標として参考としてください。》												
	◆交通結節点(※8)の安全性向上	大磯駅前広場に係る設計業務及び整備工事の実施、交番移転に係る補償額算定業務		定期点検(2巡回)実施済み橋りょう数(全69橋)	橋	0	57	69	70			69				
				橋りょう長寿命化実施済み橋りょう数(全69橋)	橋	4	10	20	30			31				
				主要幹線道路構想	路線	0	0	0	0			1				
C(CHECK)					A(ACTION)											
総合計画審議会評価					町評価											
評価	意見等				今後の方向性											
I II III IV V	①地域防災力向上事業に関して、「主な取組み」が抽象的な内容であるため評価しづらい。また、当該年度(令和5年度)で実施(導入)した取組みが継続的に運用している取組みかが分からないため、分かるように記載してほしい。 ②健康長寿推進事業に関して、「主な取組み」に記載されている内容(介護予防教室など)が、KPI「平均自立期間」の目標値「延伸」につながっているのかが分からない。具体的な取組内容や、効果を示してほしい。				◆重点事業①について、大規模災害を想定した実践的な訓練の実施や、学校避難所、福祉避難所の受入体制の確認を継続して行い、防災体制づくりの強化に努める。また、より確実な情報伝達体制を確保するため、防災行政無線の更新工事を実施する。 ◆重点事業②について、引き続き、「通いの場」など、健康づくりや介護予防の推進に向けて取り組んでいる団体を支援する。また、関係団体、民間事業者と連携をしながら、地域医療・救急医療に加え、災害時の医療・福祉サービスの提供体制の充実をめざす。 ◆重点事業③について、引き続き、「地域公共交通計画」に基づく、新たな公共交通の導入に向けた検討を進める。また、交通結節点となる「大磯駅」の駅前広場の整備を進め、通勤通学者及び来訪者の利便性を図る。											

(※6)防災・行政ナビ…町からお知らせ、防災や災害に関係する情報、生活に役立つ情報が通知されるスマートフォン専用の無料情報ポータルアプリ。

(※7)地域モビリティ…バスやタクシーといった公共交通など、地域における様々な移動手段。

(※8)交通結節点…鉄道駅、バスターミナル、駅前広場など交通手段が相互に接続し、交通動線が集中的に結節する箇所。

(※9)平均自立期間…大磯町での要介護認定2以上になるまでの期間の平均を指し、第五次総合計画前期基本計画重点プロジェクト3の(②健康長寿推進事業)のKPIに位置づけられている「健康寿命」を指す。